

はっぴいバス事業評価について

- 事業評価について P.2～3
- 事業の目的に関する評価 P.4～14
- 利用状況に関する評価 P.15～17
- <参考> 収支状況に関する評価 P.18～19
- 令和6年度事業評価 P.20

はっぴいバス事業評価について



1 事業の目的

2 利用状況

※ 収支状況

利用の面から

経費の面から

事業の目的に
沿っているか

利用者は増
えているか



収支率は？

はっぴいバスの事業指標



項目	指標	備考
事業の目的	公共交通空白地域の解消	
	多様な世代の外出支援	乗込み調査、祝日運行等
利用状況	利用状況（北東コース）	1便あたりの乗車人員 11.3（人/便）
	利用状況（西コース）	1便あたりの乗車人員 11.3（人/便）
	利用状況（北西コース）	1便あたりの乗車人員 11.3（人/便）
<参考指標> 収支状況	収支率（全体）	前年度収支率と比較して改善されたか



1. 事業の目的に関する評価

- **事業の目的が達成されているか**を評価

事業目的は、

- ① 公共交通空白地域等の解消
- ② 多様な世代の外出支援

- 事業目的ごとに以下のような評価を実施

事業目的	評価
公共交通空白地域等の解消	事業前後で交通空白地域の解消度を比較 (以後、変化がないか定期的に検証)
多様な世代の 外出支援	利用者の外出頻度の状況を調査 はっぴいバスがどの程度貢献しているか検証



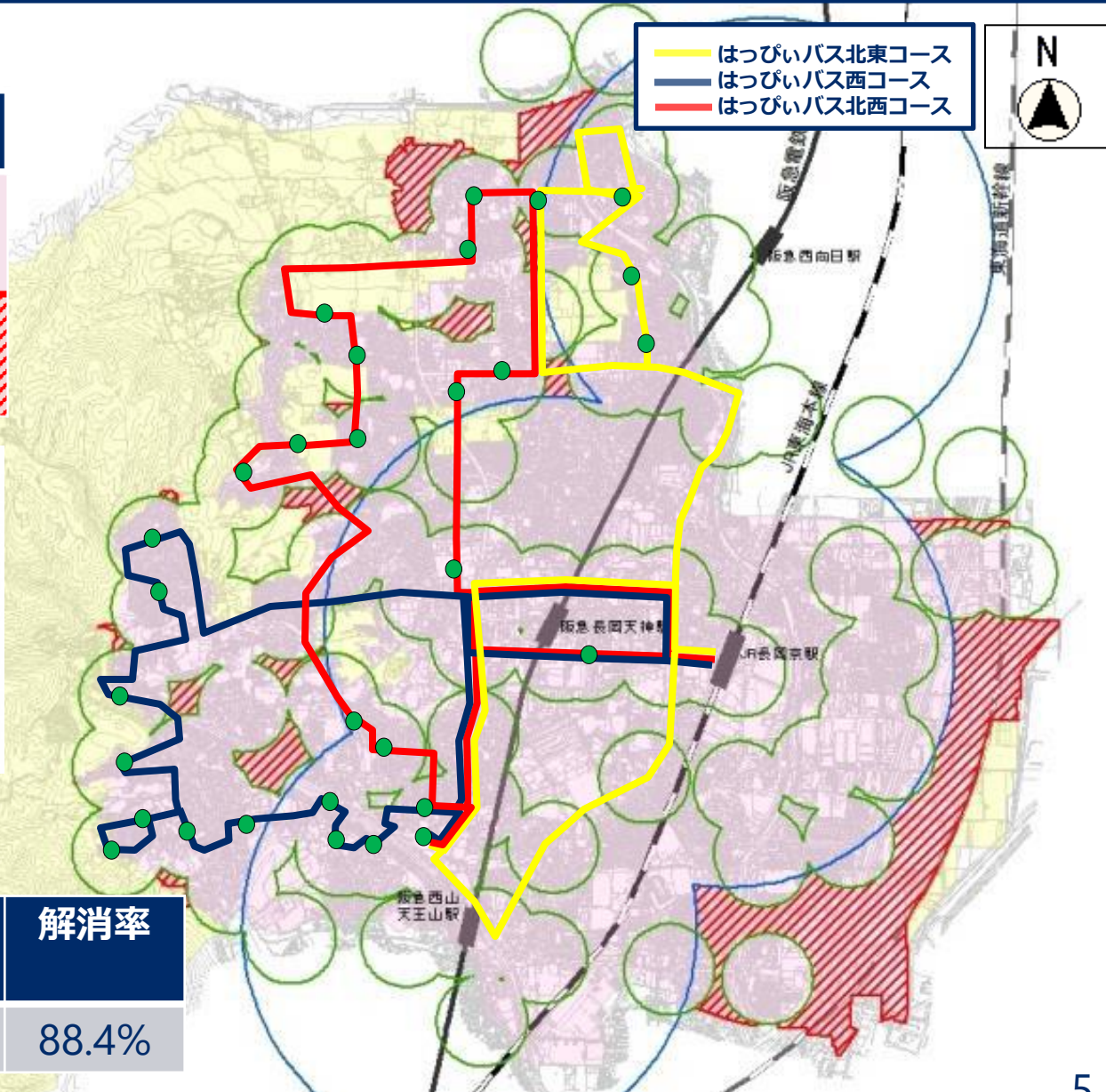
①公共交通空白地域等の解消

駅	バス	
	200m未満	200m以上
1km未満	公共交通 利便地域	
1km以上		公共交通 空白地域

- バス停留所_200m 勢圏
- 鉄道駅_1km 勢圏
- 市街化区域
- 市街化調整区域

はっぴいバス単独の停留所：●

市街化区域 面積	公共交通 空白地域面積	解消率
958ha	111ha	88.4%

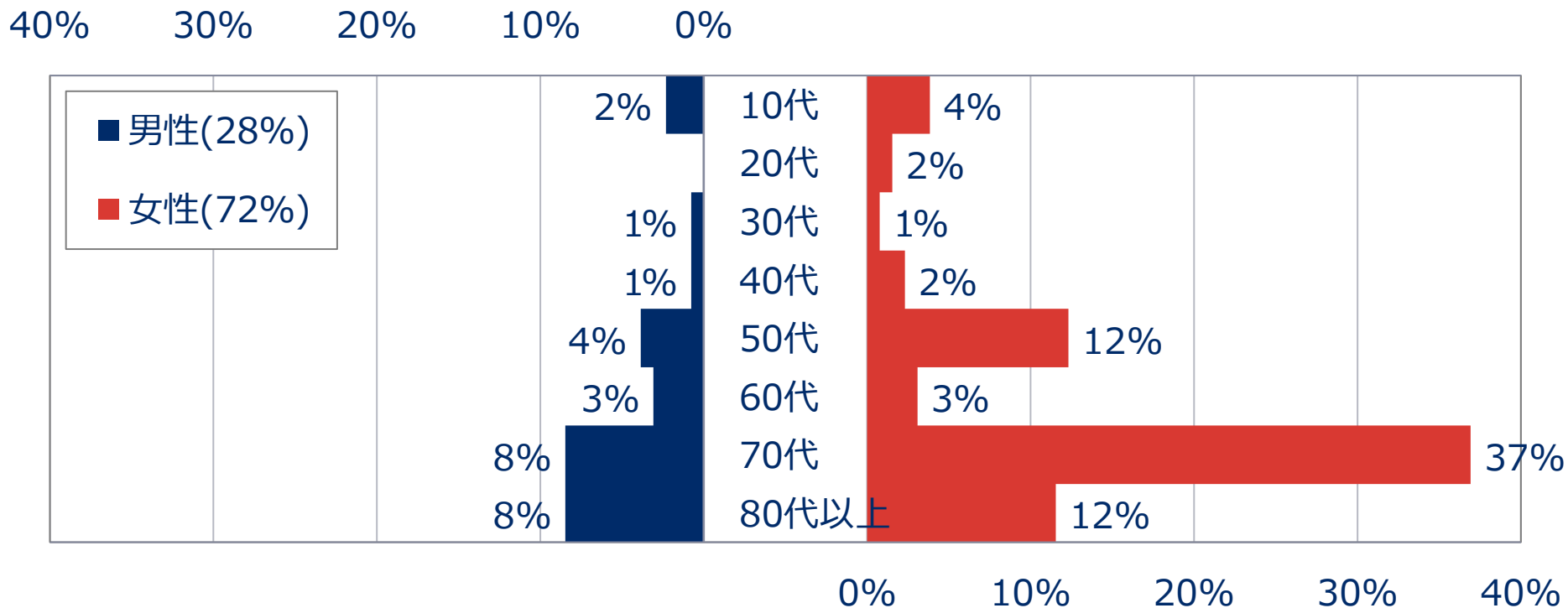


②多様な世代の外出支援 (アンケート結果から)



- はっぴいバス利用者アンケートを実施
 - ・アンケート実施日：令和8年1月19日(月)～2月13日(金)
 - ・回答者：130人 (窓口17人、車内79人、インターネット34人)

乗車客属性

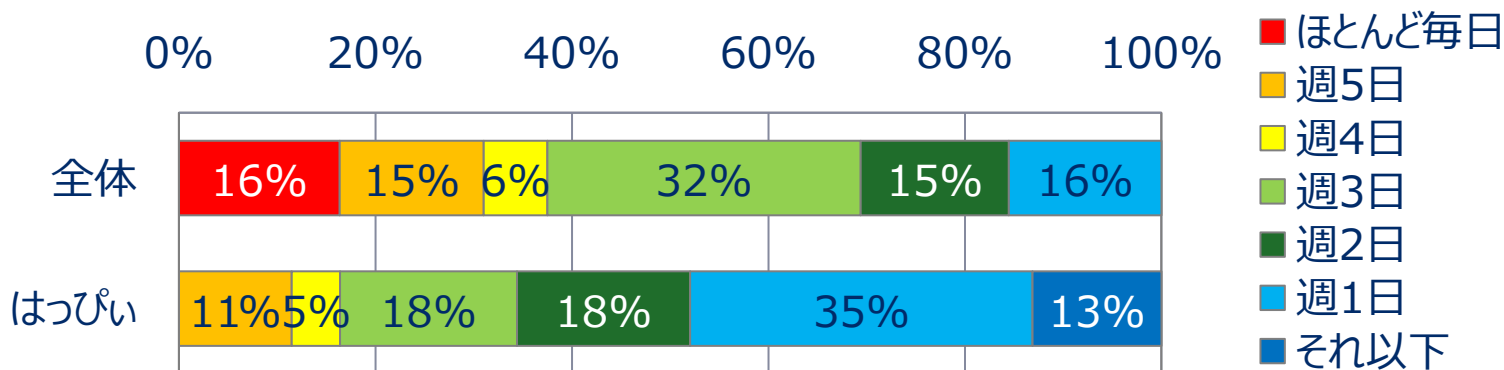


○回答者は女性のほうが多く、60歳以上の方が全体の70%を占める。

②多様な世代の外出支援 (アンケート結果から)

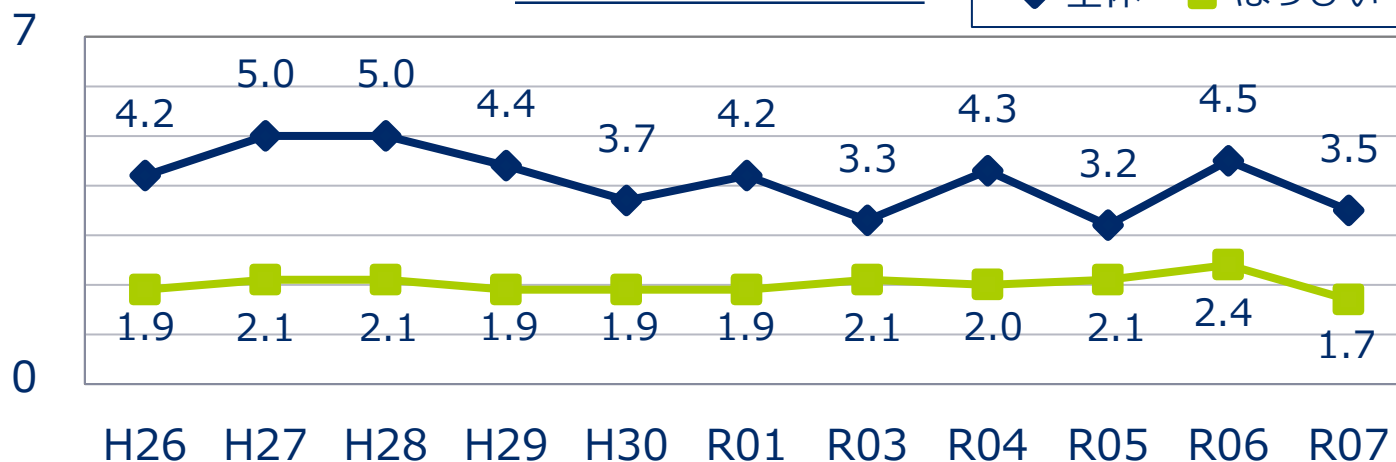


お出かけ頻度 (全体/はっぴいバス)



(回/週)

お出かけ頻度遷移

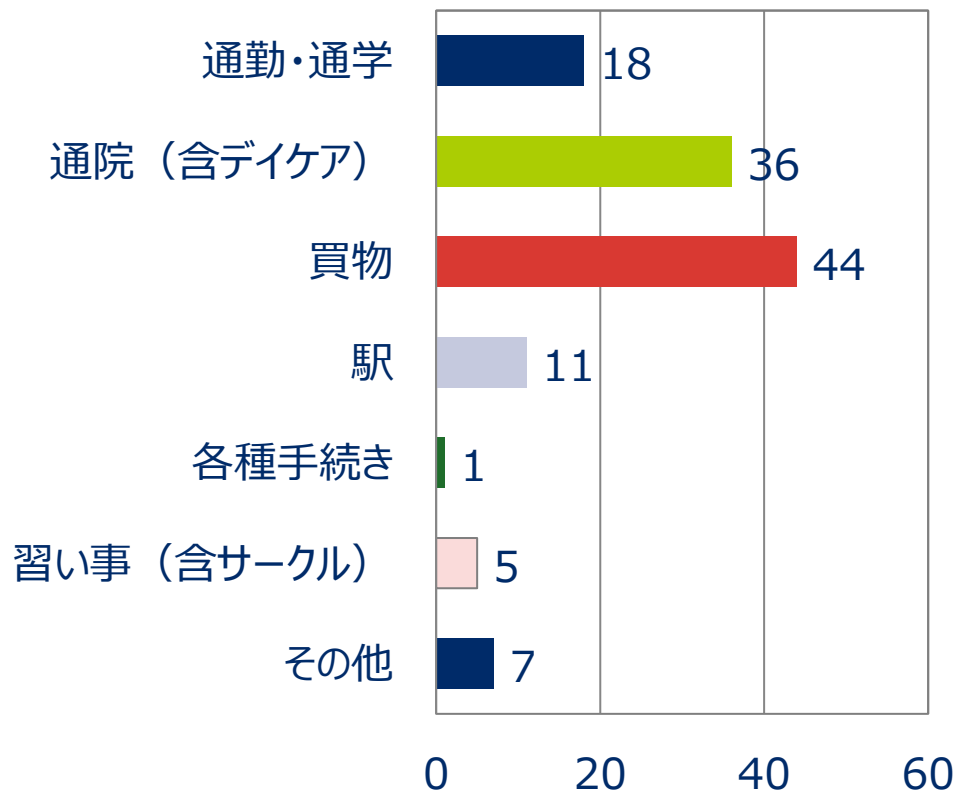


○はっぴいバスでのお出かけ頻度はほぼ横ばいであり、全体のお出かけ回数の半分程度がはっぴいバスでのお出かけとなっている。

②多様な世代の外出支援 (アンケート結果から)



はっぴいバスの利用目的

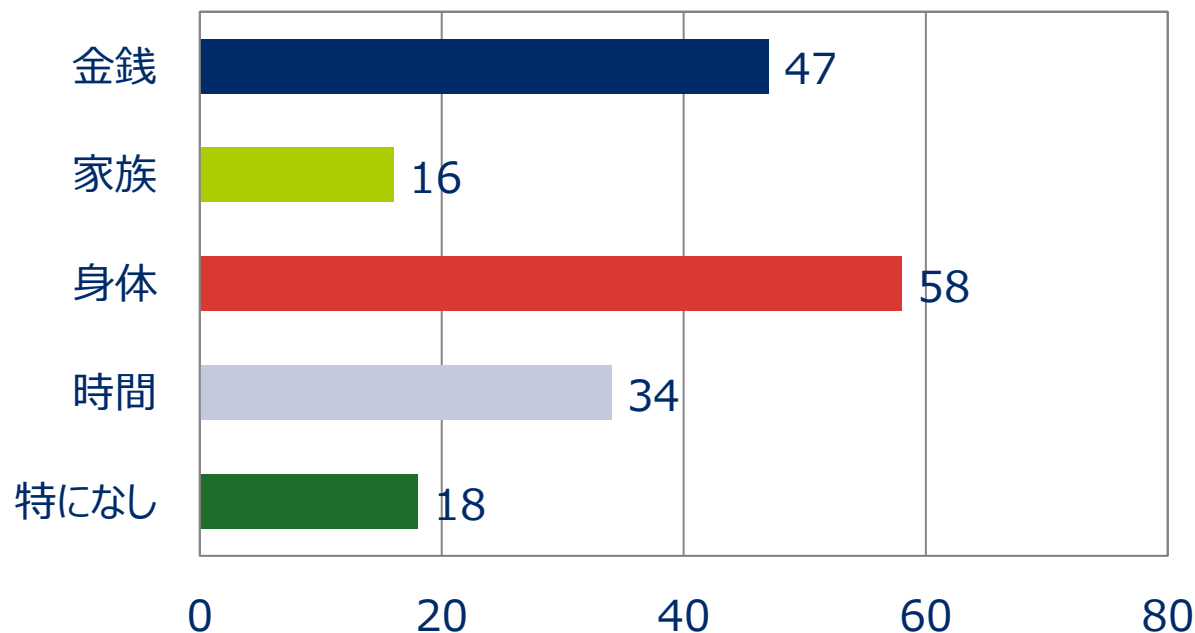


○「通院 (含デイケア)」や「買物」が多い状況である。

②多様な世代の外出支援 (アンケート結果から)



はっぴいバスが無くなった場合の主な負担

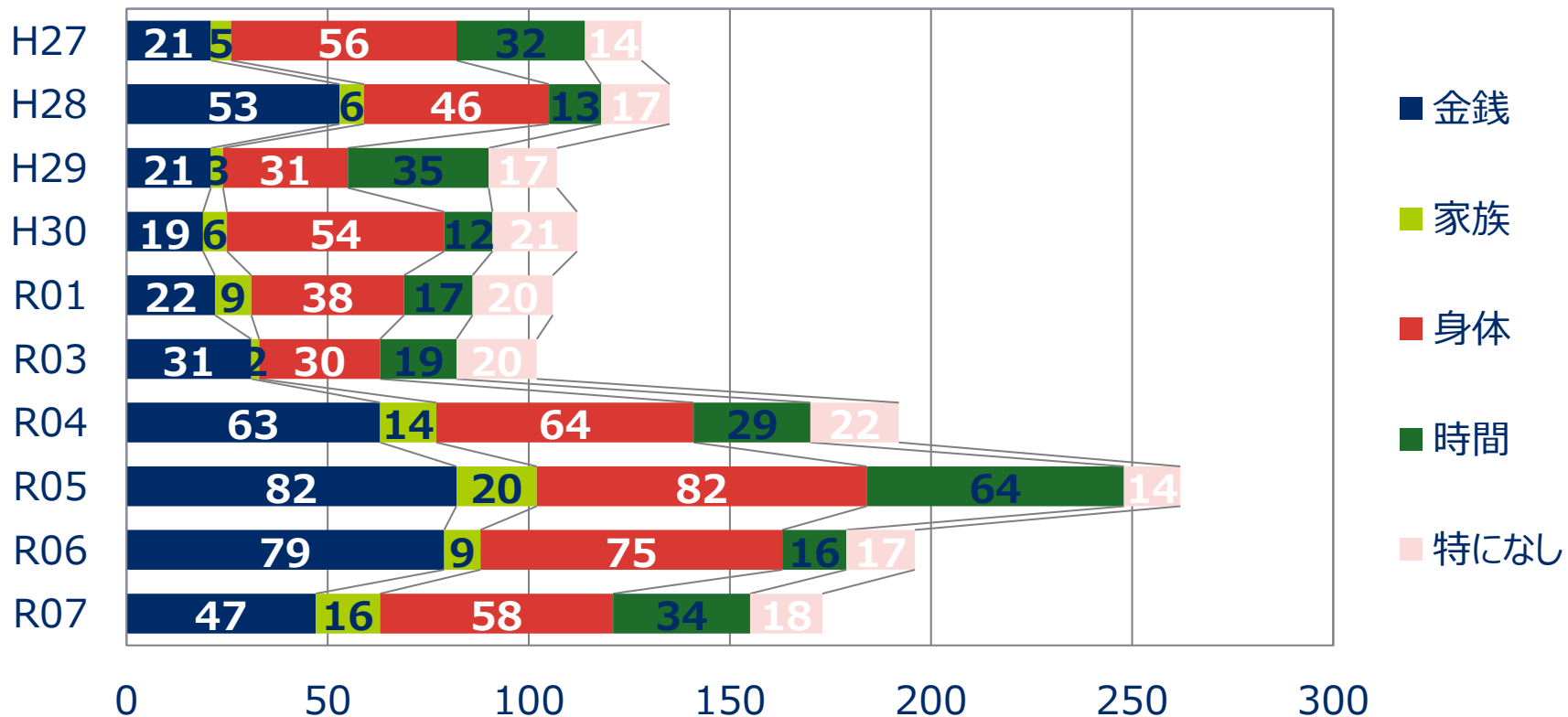


○はっぴいバスが無くなった場合の負担として「身体的負担」が最も多く、次いで「金銭的負担」「時間的負担」が多い。

②多様な世代の外出支援 (アンケート結果から)



はっぴいバスが無くなった場合の負担遷移

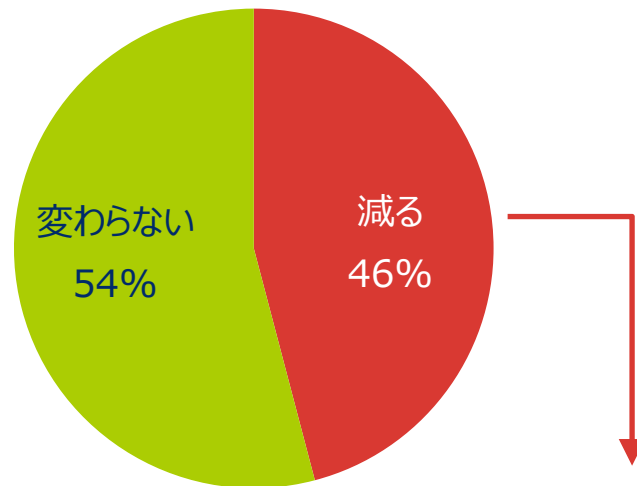


○近年では「金銭的な負担」と「移動のための身体的負担」の回答割合が多い傾向にある。

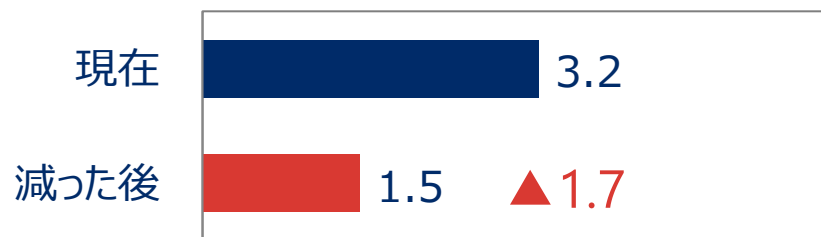
②多様な世代の外出支援 (アンケート結果から)



はっぴいバスが無くなった場合のお出かけの変化



お出かけ回数の変化



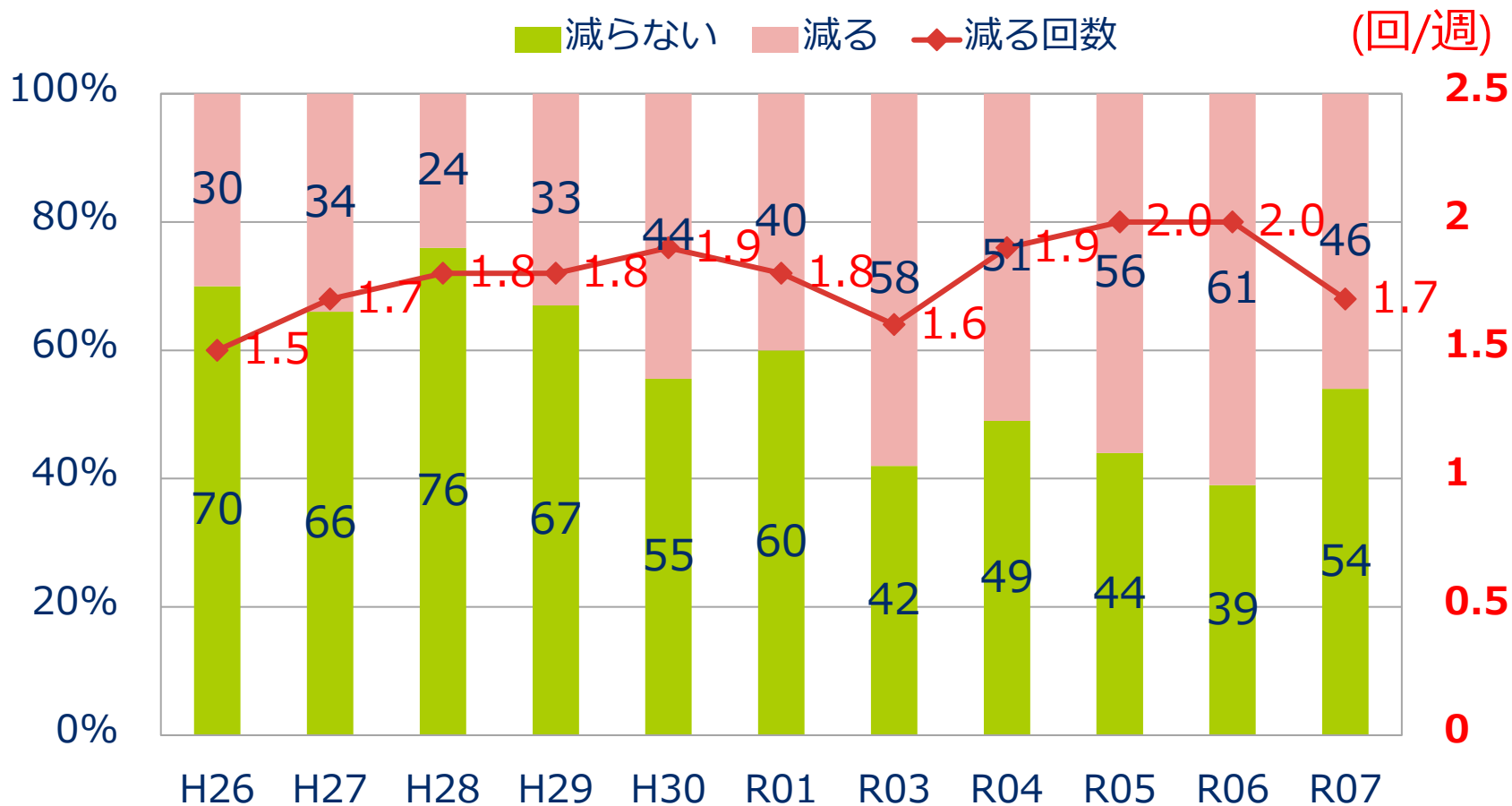
(回/週)

○はっぴいバスが無くなった場合に約半数の方のお出かけ回数が減少する。

②多様な世代の外出支援 (アンケート結果から)



はっぴいバス有無お出かけ頻度遷移

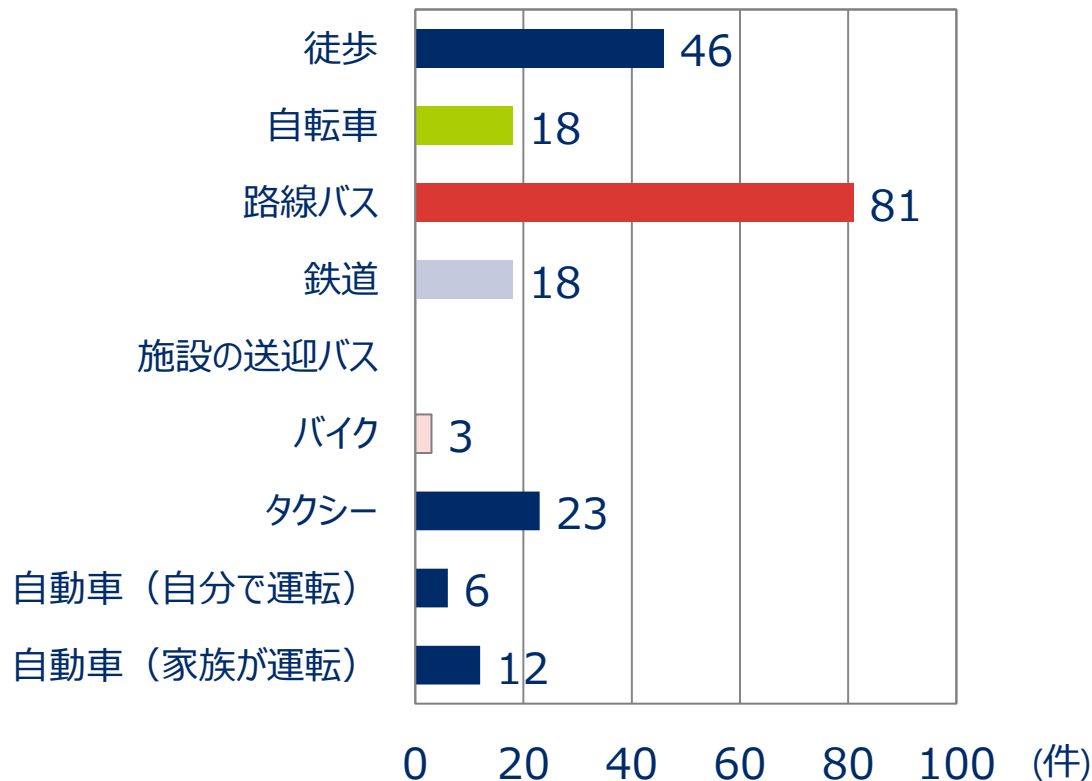


○はっぴいバスが無くなった場合、週に約1~2回おでかけが減る。

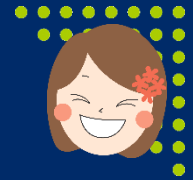
②多様な世代の外出支援 (アンケート結果から)



はっぴいバスがなくなった場合の代替手段



○代替手段として「路線バス」が最も多くなっている。



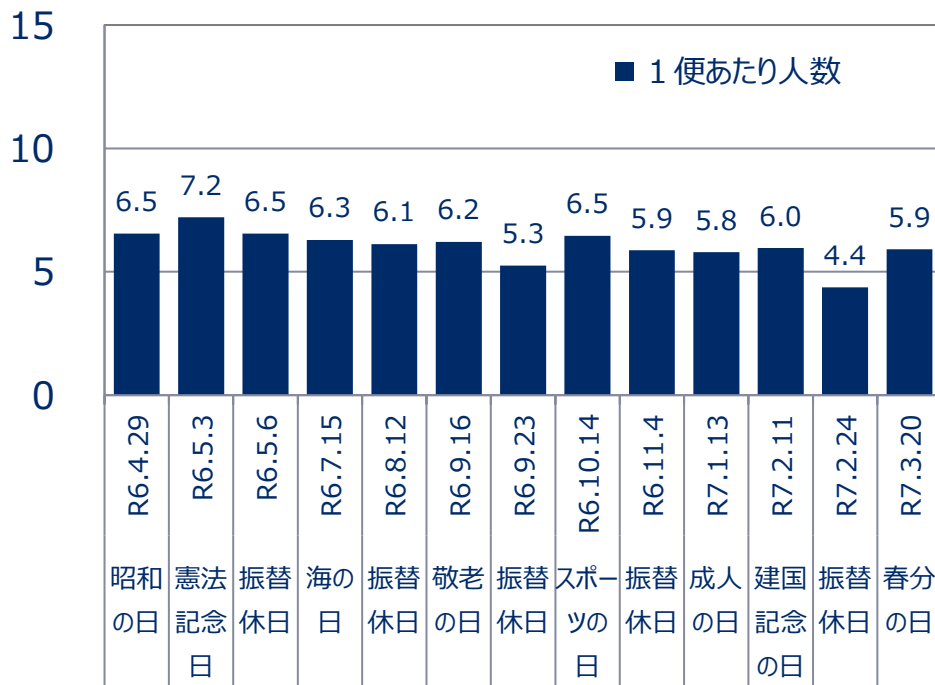
- はっぴいバス利用意向調査での御意見等
 - ・ 1時間に1本運行して欲しい
 - ・ 病院の帰りの時間帯に運行して欲しい
 - ・ 存続してほしい
 - ・ 若い子も乗るようになったので、塾の帰りなどの時間帯も運行してほしい
 - ・ 路線バスと時間帯をずらして運行してほしい
 - ・ 土日が運休のため、市のイベントなどに参加しづらい
 - ・ バス停が家に近く、助かっている

②多様な世代の外出支援【祝日運行】



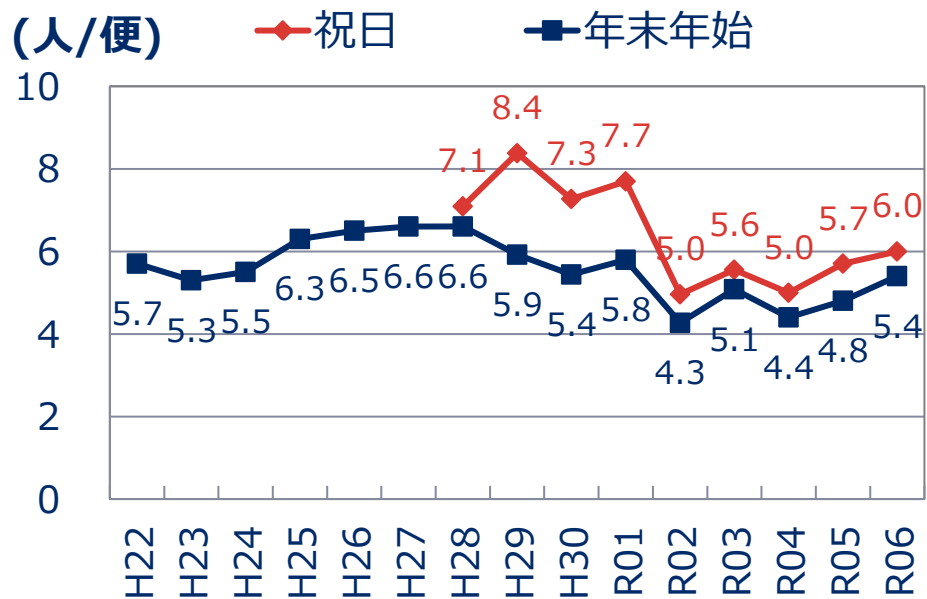
令和6年度 祝日運行まとめ

(人/便)



祝日運行等利用者数の推移

(人/便)



※年末年始特別運行 平成21年度～

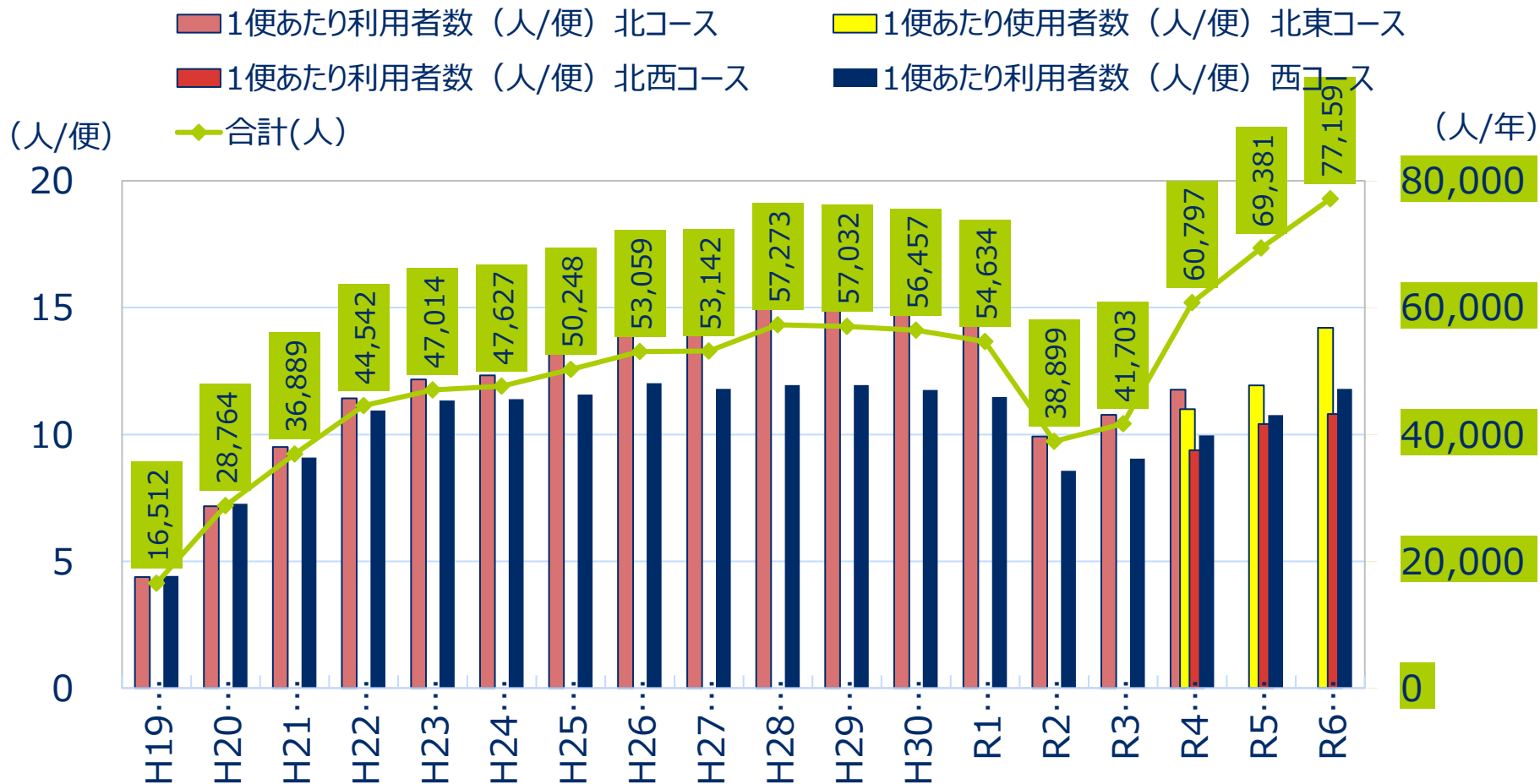
※祝日運行 平成28年度～

○平成28年度から祝日運行を行っているが、平日と比較すると大幅に少ない利用状況が続いている。



2. 利用状況に関する評価

はっぴいバス利用者数推移

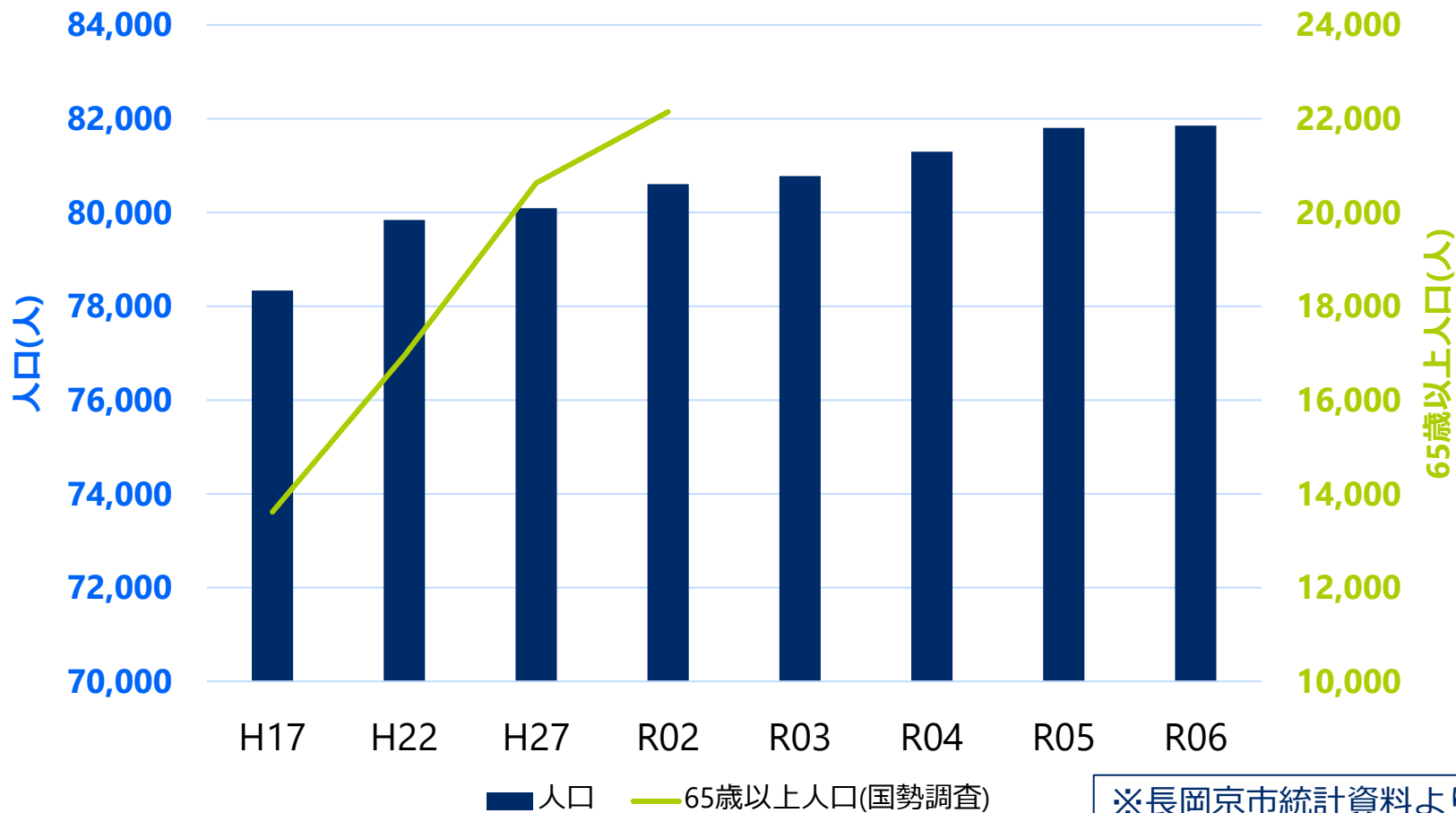


○令和4年度以降についてはコースの増加や行動制限の緩和等もあり
利用人数が増加傾向にある。

<参考> 長岡京市の人口



長岡京市の人口推移



● 人口は微増の傾向、65歳以上は人口・率とも増加の傾向。

<参考> 阪急バス80・82系統廃止



80系統

- ・ 路線ルート：JR山崎駅～阪急東向日駅
- ・ 運行時間帯：午前6時～午後9時
- ・ 運行本数：1日7往復

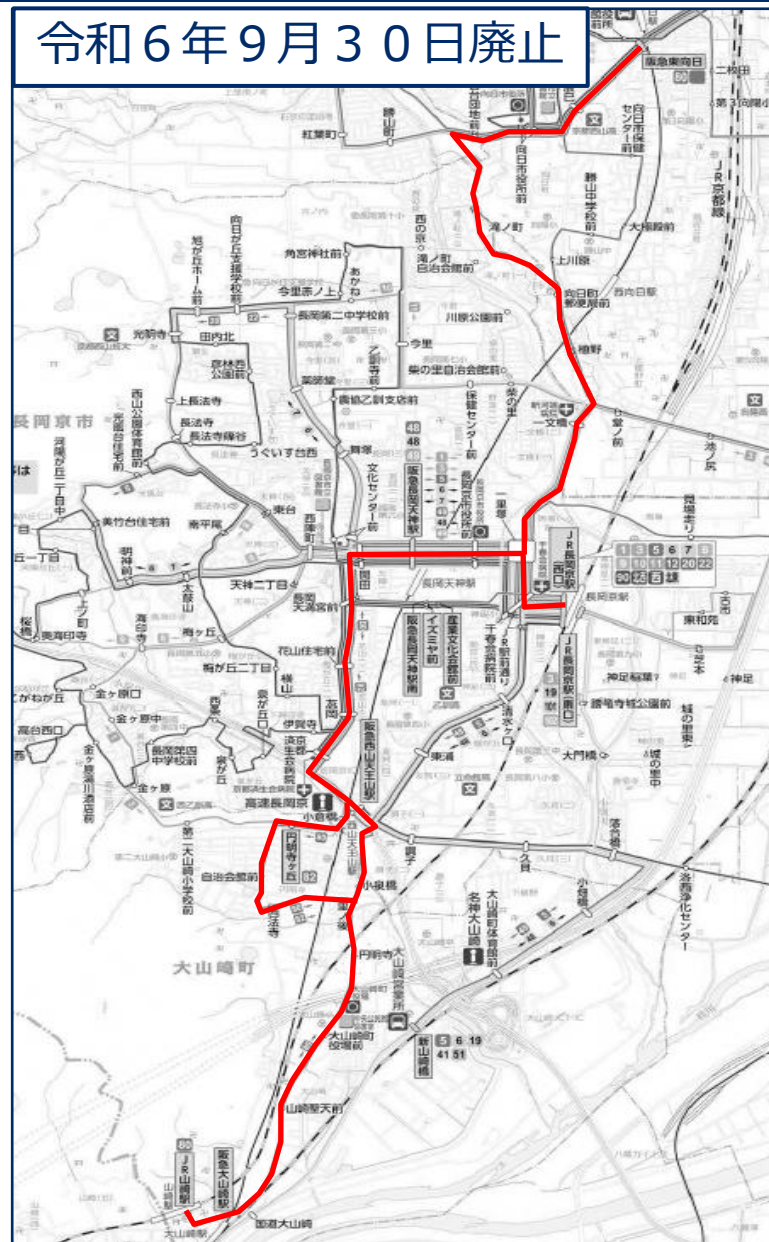
82系統

- ・ 路線ルート：円明寺ヶ丘（大山崎町）～JR長岡京駅
- ・ 運行時間帯：午前6時～午前8時
- ・ 運行本数：1日2便平日のみ

系統廃止について

- ・ 1便当たりの乗車人数も少なく、不採算を抱えている状況
- ・ 令和6年度から実施されている働き方改革により、運転士の労働時間上限に制限がかかり、運転士の人手不足が深刻化

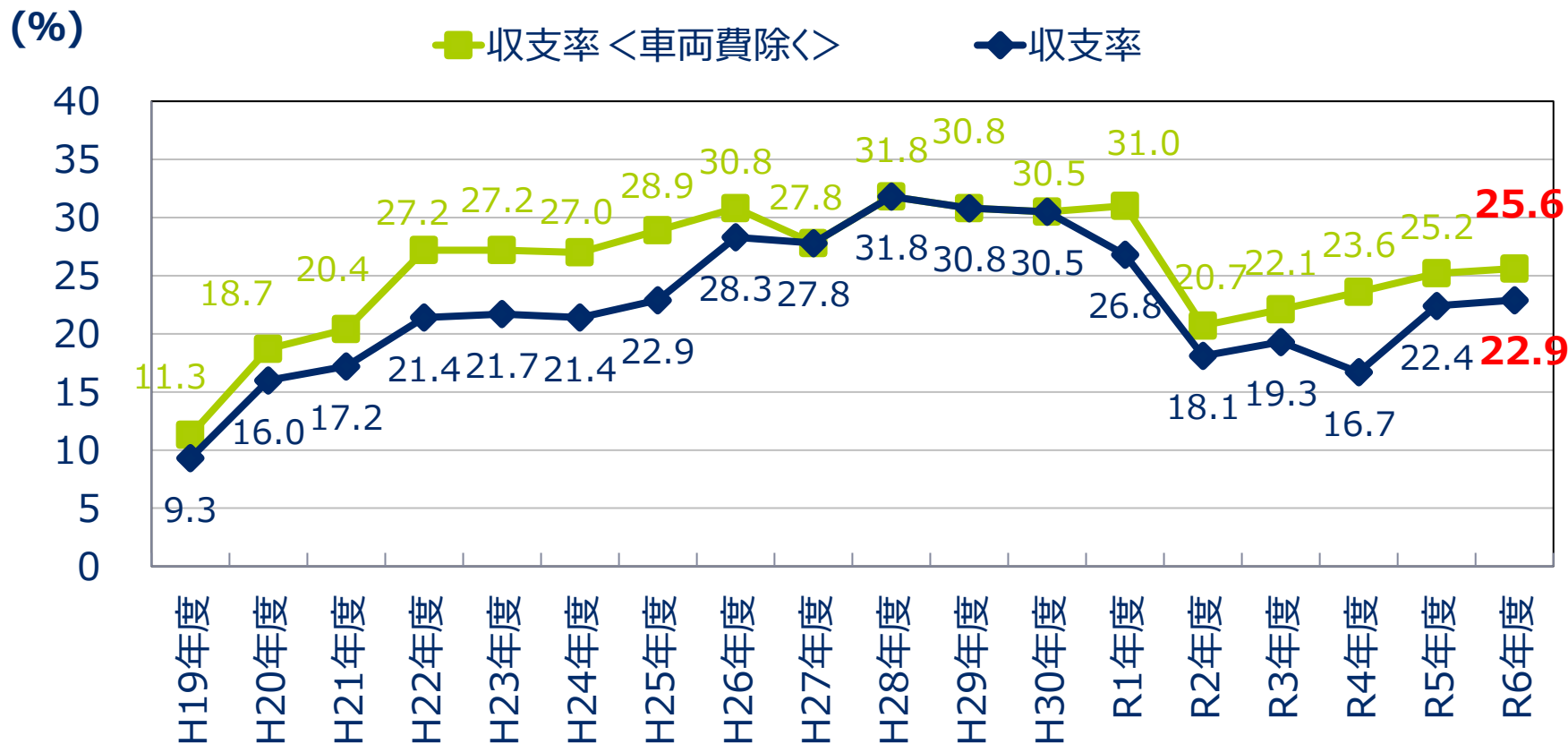
令和6年9月30日廃止





<参考> 収支状況に関する評価①

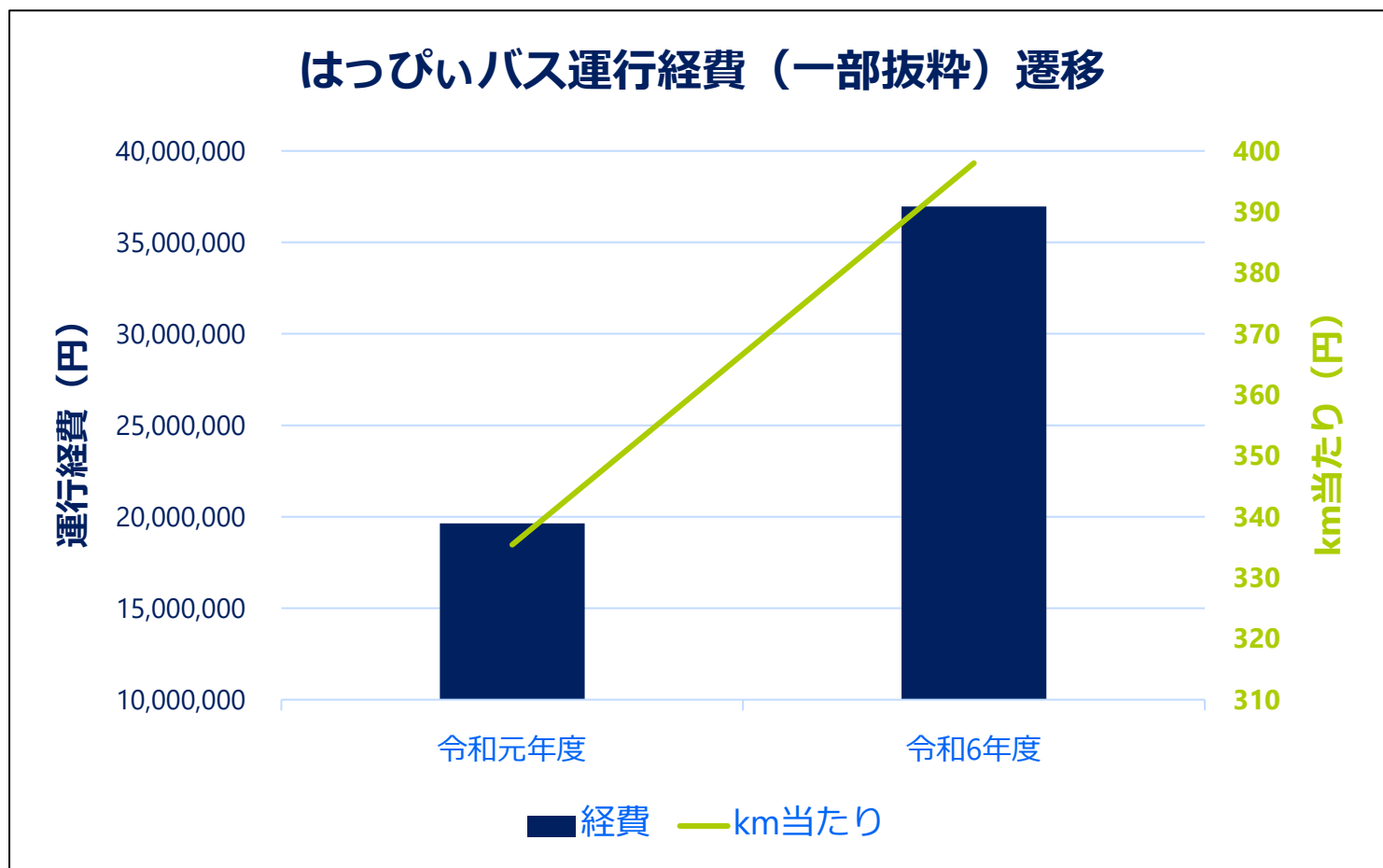
はっぴいバス収支率遷移



○利用者数の増加により収支率は回復しているが、運行経費も増加傾向にあるためコロナ禍前までは回復していない。



＜参考＞ 収支状況に関する評価②



○燃料費や人件費といった運行にかかる経費について、総額、kmあたりの額はともに上昇傾向にある。

はっぴいバスの事業評価



項目	指標	実績	判定
事業の目的	公共交通空白地域の解消	解消率 88.4%	○
	多様な世代の外出支援	週3.5回 のお出かけのうち、 週1.7回 のお出かけで はっぴいバスを利用	○
利用状況	利用状況（北東）1便あたりの乗車人員11.3（人/便）	14.2人 > 11.3人	○
	利用状況（西）1便あたりの乗車人員11.3（人/便）	11.8人 > 11.3人	○
	利用状況（北西）1便あたりの乗車人員11.3（人/便）	10.8人 < 11.3人	×
<参考指標> 収支状況	収支率（全体）前年度収支率と比較して改善されたか	22.9% > 22.4%	-

○利用状況については増加傾向にあり、通院、買物といった生活に必要な目的での利用での役割も果たしている。



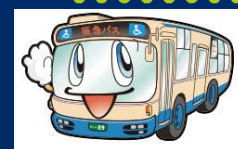
- 東部バスの事業指標 P.22
- 事業の目的に関する評価 P.23～29
- 利用状況に関する評価 P.30
- <参考> 収支状況に関する評価 P.31～32
- 令和6年度事業評価 P.33

東部バスの事業指標



項目	指標	備考
事業の目的	通勤定期利用者数	
	多様な世代の外出支援	乗込み調査
利用状況	利用状況	1便あたりの乗車人員
<参考指標> 収支状況	収支率（全体）	前年度収支率と比較して改善されたか

1. 事業の目的に関する評価



- **事業の目的が達成されているか**を評価

事業目的は、

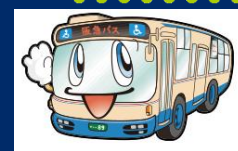
①通勤利用

②多様な世代の外出支援

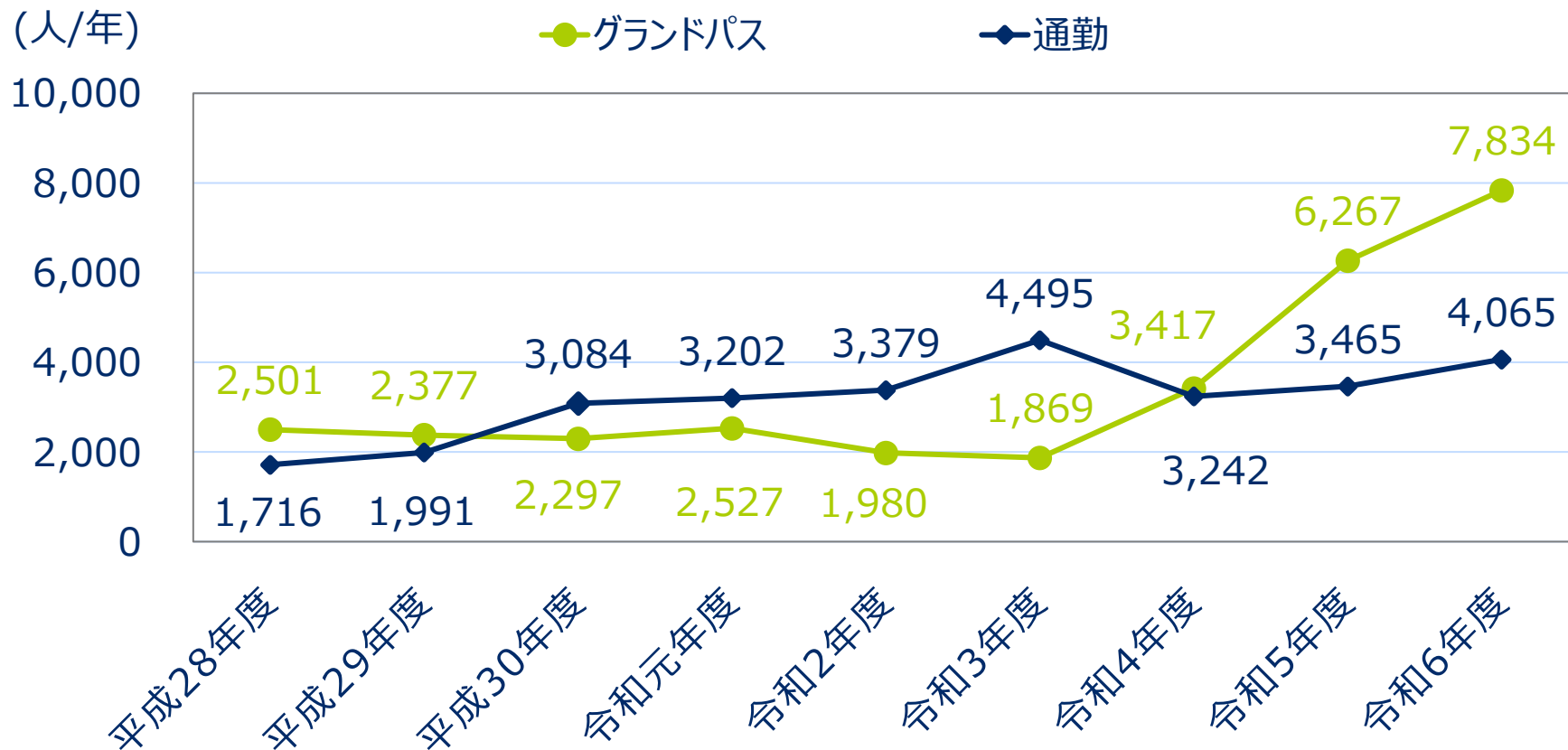
- 事業目的ごとに以下のような評価を実施

事業目的	評価
通勤利用	通勤定期券利用者数
多様な世代の外出支援	利用者の外出頻度の状況を調査 東部バスがどの程度貢献しているか検証

①通勤定期利用者数



通勤・グランドパス利用者の推移



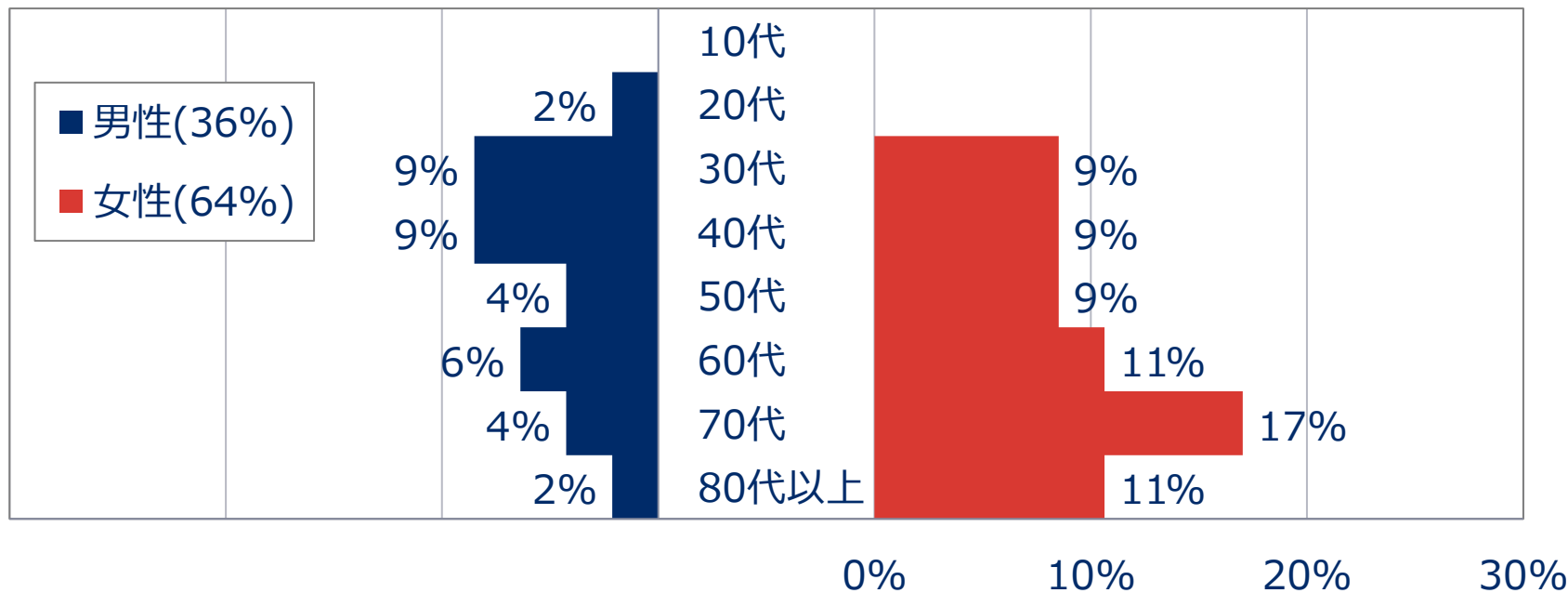
○通勤定期の利用は昨年度と比べて増加しており、それ以上にグランドパスの利用数が大幅に増加している。



②多様な世代の外出支援 (アンケート結果から)

- 東部バス利用者にアンケートを実施
 - ・アンケート実施日：令和8年1月19日(月)～2月13日(金)
 - ・回答者：50人（窓口2人、車内24人、インターネット24人）

乗車客属性

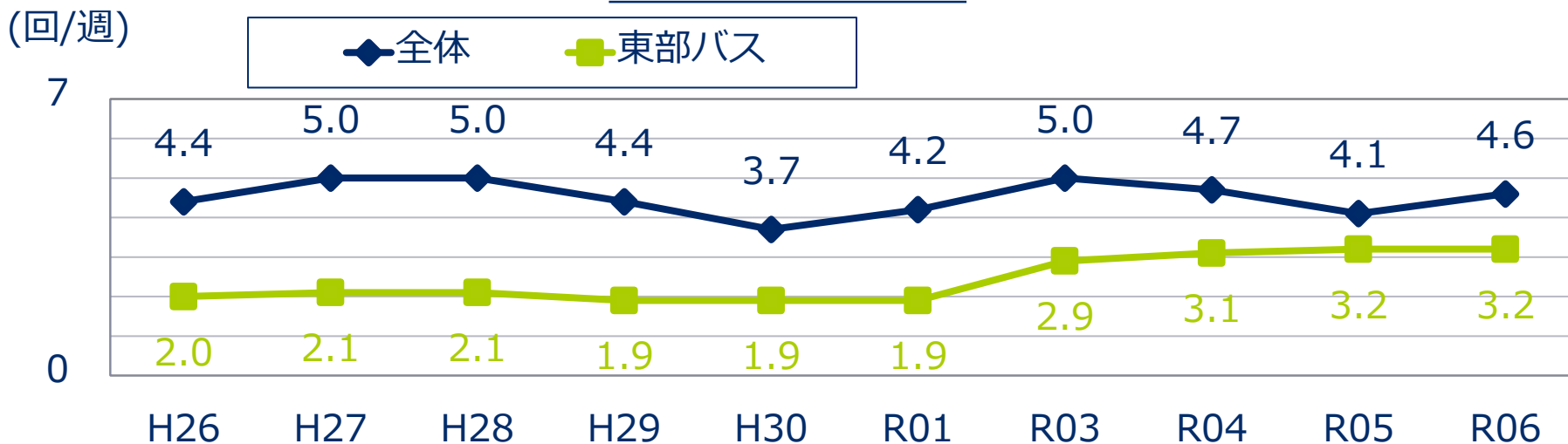


○回答者は女性のほうが多く、全体では50代以下と60代以上の方の割合が半々程度となっている。

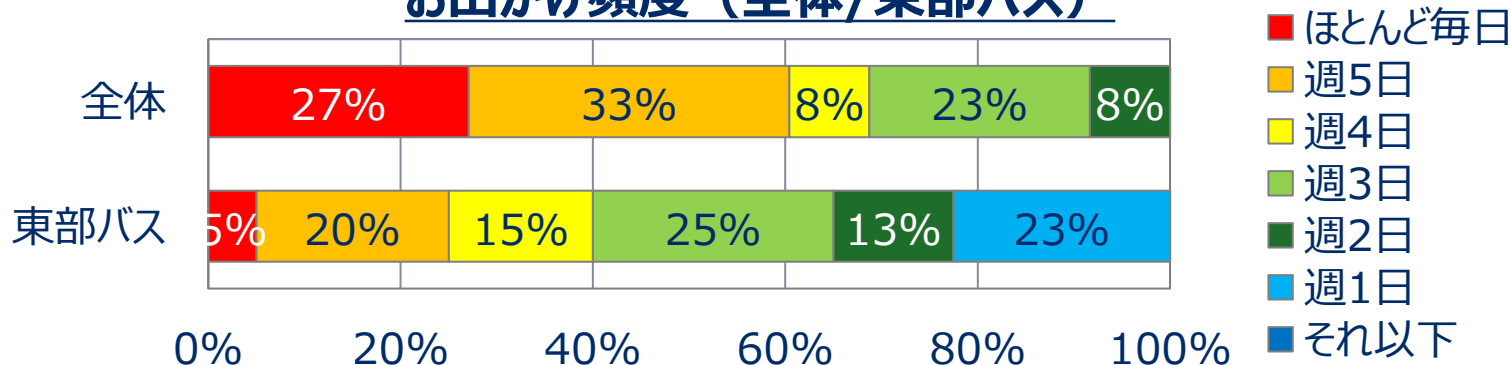
②多様な世代の外出支援 (アンケート結果から)



お出かけ頻度遷移



お出かけ頻度 (全体/東部バス)

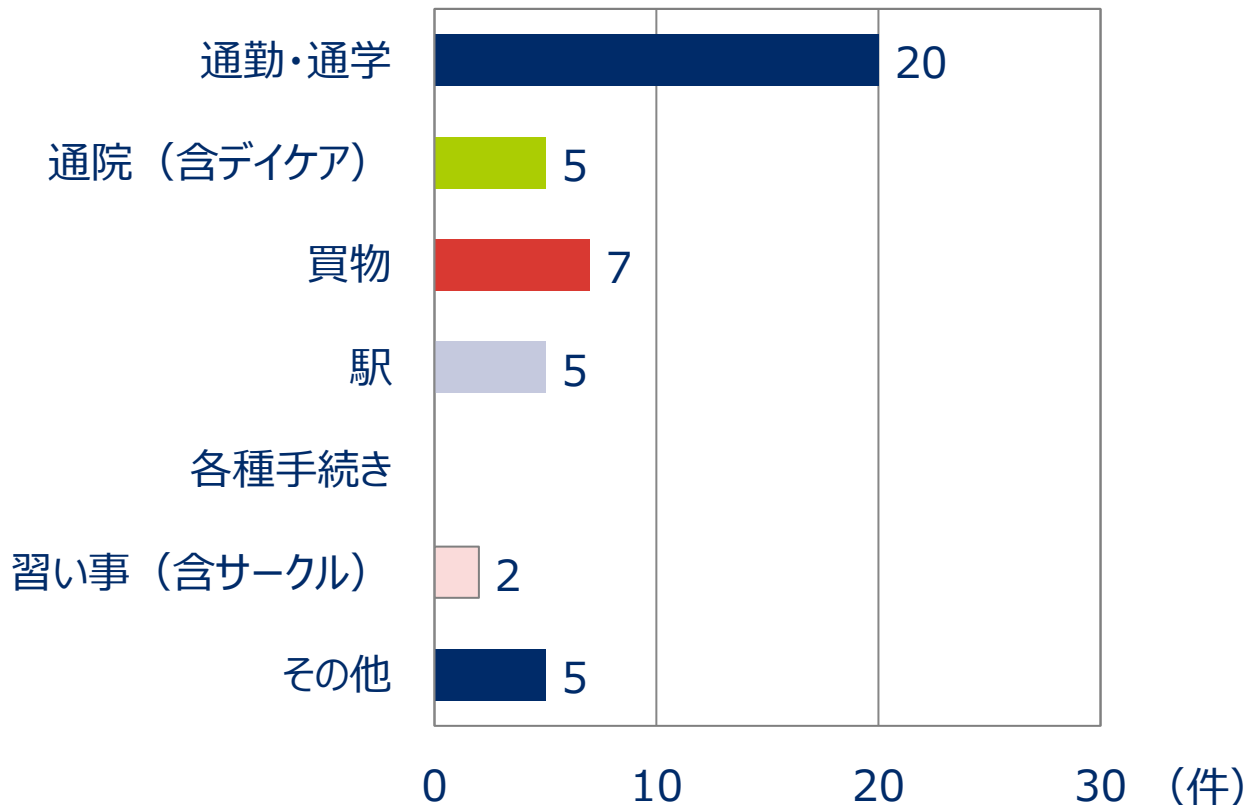


○お出かけ頻度4.6 (回/週) のうち、東部バス利用回数は3.2 (回/週) であり、お出かけの1/2以上は東部バスを利用している。

②多様な世代の外出支援 (アンケート結果から)



東部バスの利用目的

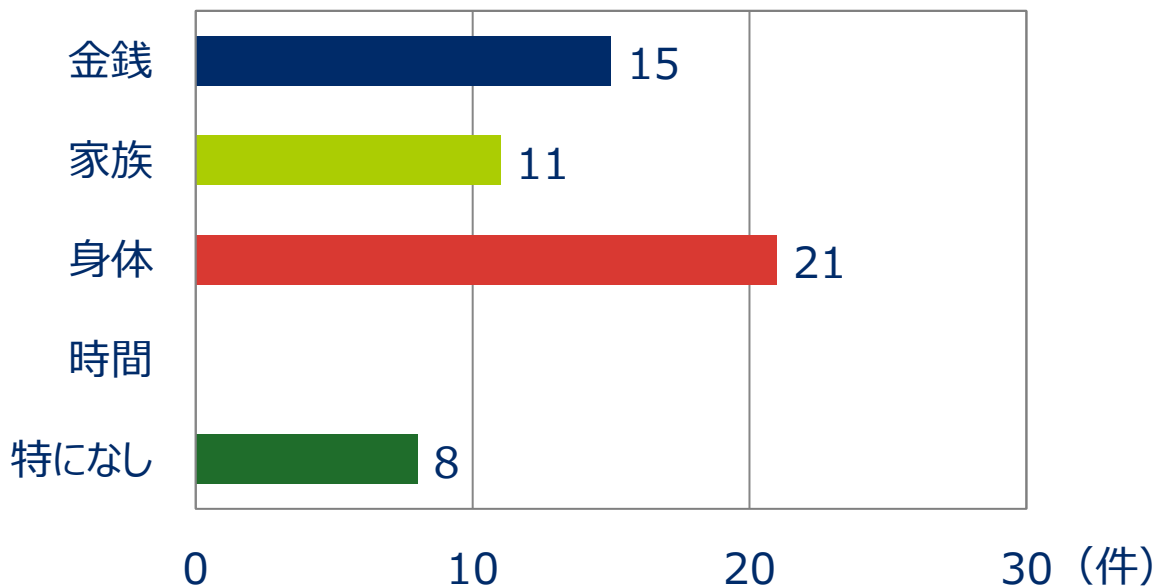


○通勤・通学が最も多く、次いで買物が多くなっている。

②多様な世代の外出支援 (アンケート結果から)



東部バスが無くなった場合の負担種別

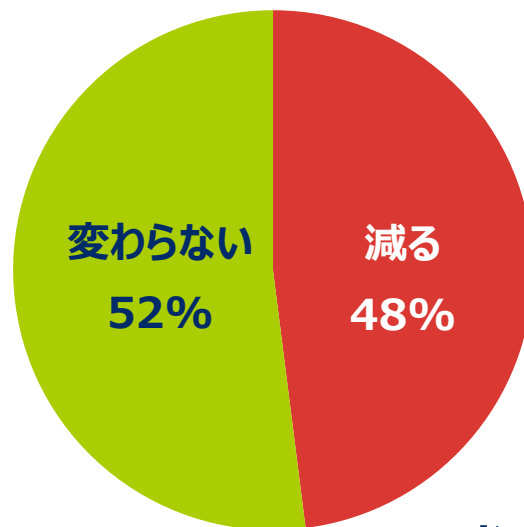


○東部バスがなくなった場合の負担として、「身体的負担」が最も多く、次いで「金銭的負担」が多くなっている。

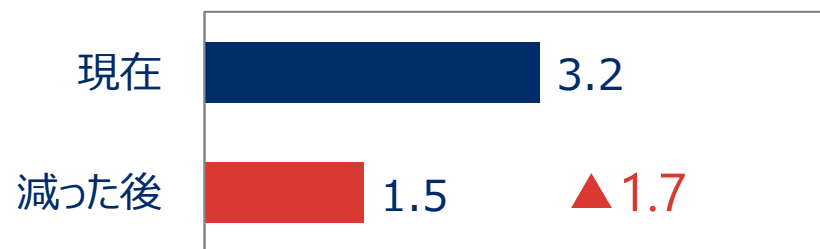
②多様な世代の外出支援 (アンケート結果から)



東部バスが無くなった場合のお出かけの変化



お出かけ回数の変化



(回/週)

○東部バスが無くなった場合に約半数の方のお出かけ回数が減少する。

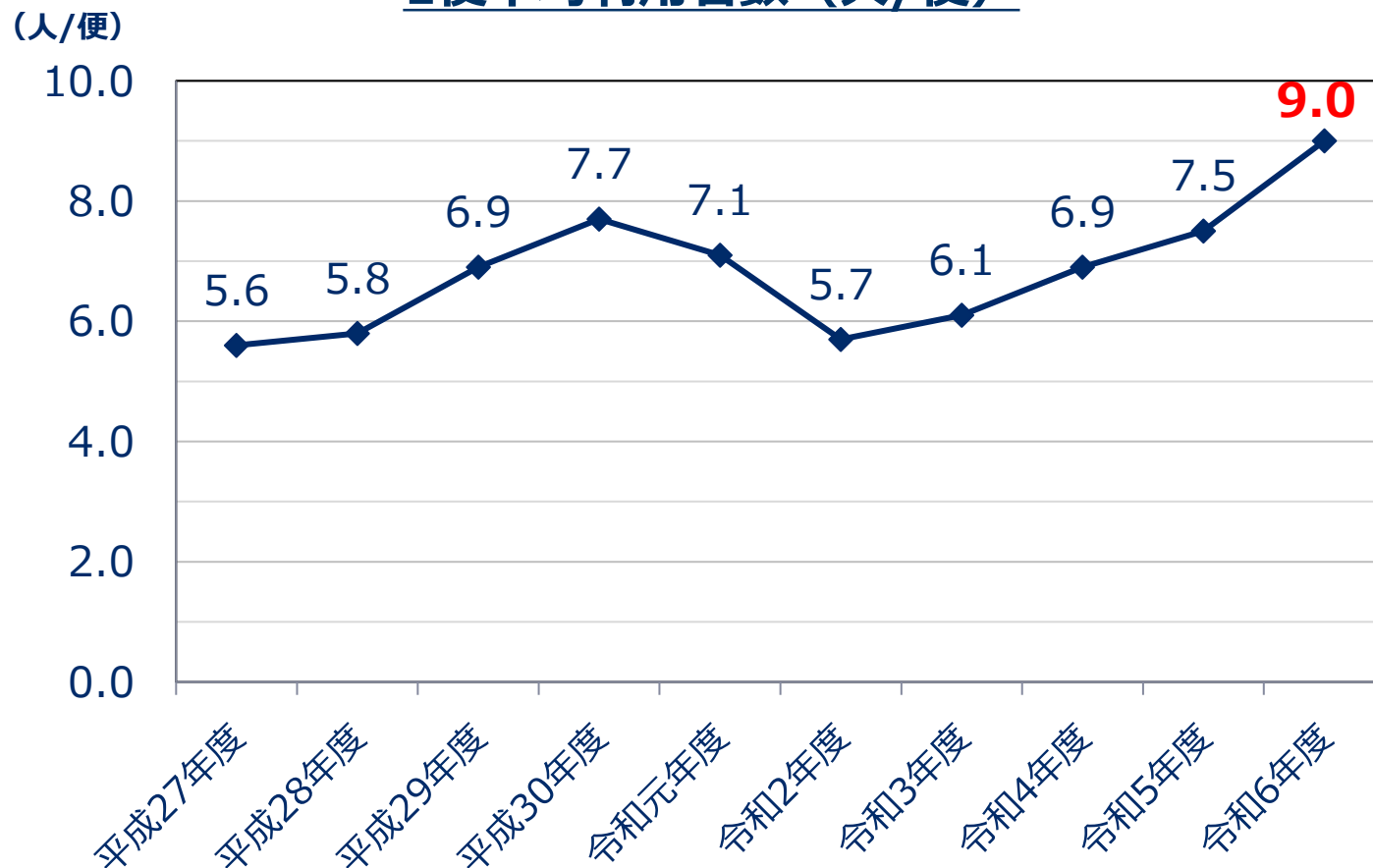


- 東部バス利用意向調査での御意見等
 - ・ 東部バスがあることが生活と心の支えとなり、大変助かっています。
 - ・ 無くてはならない、欠かせない公共交通機関だと思う。
 - ・ 高齢者で駅まで歩ける距離ではありますが、移動時の負担が全然異なります。
 - ・ 免許の返納にもつながり、事故防止の面からも重要。
 - ・ 子どものお出かけ、天候の悪い日にとっても便利。
 - ・ 毎日の通勤だけでなく、休日の荷物が多いときなどのお出かけに助かっています。
 - ・ 朝夕の通勤時の本数がもう少し増えると嬉しいです。
 - ・ 土日祝日も出勤するので平日なみに運行してほしい。
 - ・ 城の里中の場所を前の場所近くに戻して欲しい。



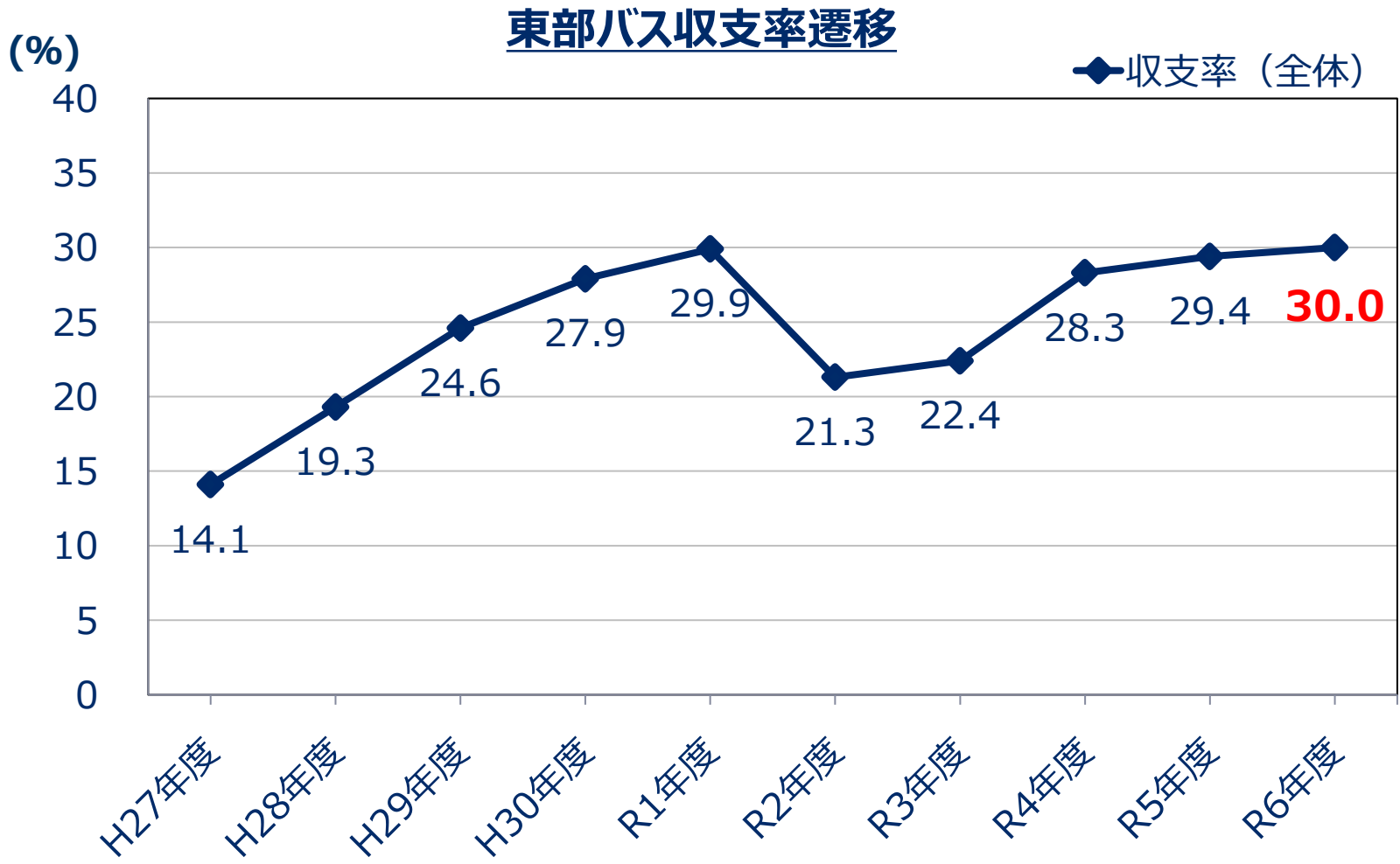
2. 利用状況の評価

1便平均利用者数（人/便）



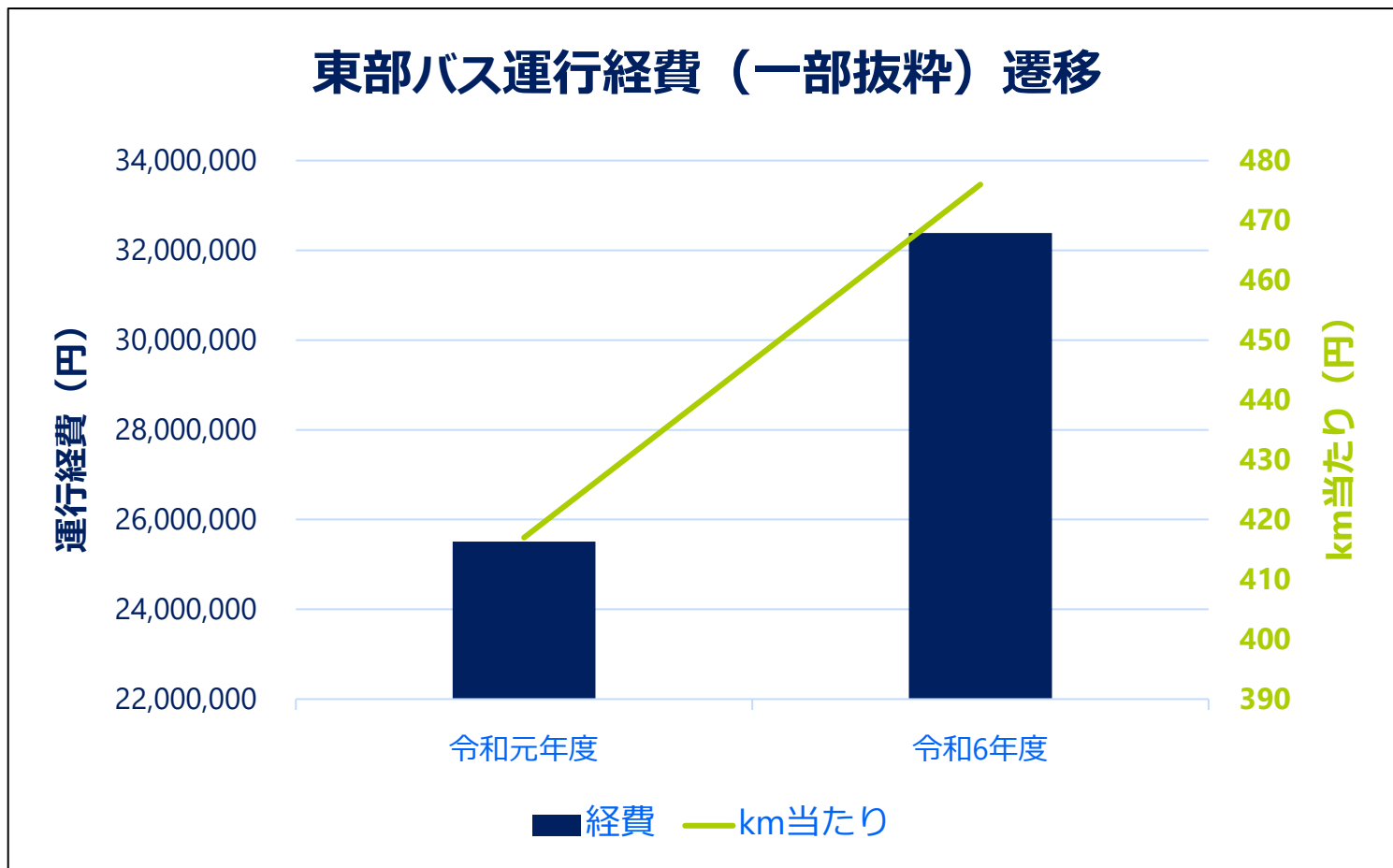
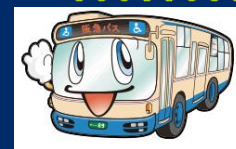
○利用者数は増加傾向にあり、令和6年度はコロナ禍以前の水準を超えており、目標の10.0人に近づいている。

<参考> 収支状況に関する評価①



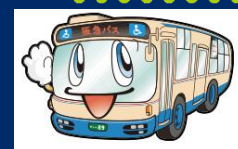
○経費が増加する中、収支率はコロナ禍以前の水準まで改善している。

<参考> 収支状況に関する評価②



○燃料費や人件費といった運行にかかる経費について、総額、kmあたりの額はともに上昇傾向にある。

東部バスの事業評価



項目	指標	実績	判定
事業の目的	通勤定期利用者数	<u>4,065/年</u> > 3,465人/年	○
	多様な世代の外出支援	50代以下の利用者の割合がはっぴいバスよりも多く、幅広い世代の利用がある	○
利用状況	利用状況 1便あたり利用者数	<u>9.0人</u> < 10.0人/便	×
<参考指標> 収支状況	収支率（全体） 前年度収支率と比較して改善されたか	<u>30.0%</u> > 29.4%	—